

り、帝國學士院から其の功績を認められ學士院賞を贈られた「支那繪畫小史」なども支那に傳はつて支那の學校の教科書などに使用されてゐる。

最近「圖本總覽」などの著述の計畫もあつたが仕事半にして斃れたが、返す／＼も傷ましくおしき限りである（談）

（昭和二年三月十日『國民新聞』）

『東京美術學校校友會月報』第二十五卷第八号には西崖の写真入り追悼記事（経歴の記述に数ヶ所誤りがある。）が二頁に亘つて掲載された。その中に西崖の膨大な著述の抜粋が「大村西崖先生編著年表（仮）」として掲載されているが、編著年表については吉田千鶴子著「大村西崖の美術批評」「大村西崖と中国」（『東京芸術大学美術学部紀要』第二十六号、第二十九号）所載の年表を参照されたい。

#### ④ 石田英一の在外研究

昭和二年二月三日、金工科鍛金部教授石田英一ひでいは文部省より満三年間フランスにおける在外研究を命ぜられた。

石田は明治九年四月十一日佐賀県に生まれ、同三十三年本校鍛金科を卒業し、同三十八年十二月本校雇、同四十年六月助教、大正十四年教授となつた。明治三十三年以降軍籍にあり、度々応召し、大正四年除隊する時点では陸軍歩兵曹長であつた。

石田の海外派遣上申案（従大正十五年在外研究員関係書類掛）には派遣を要する事由として

右石田英一ハ本校鍛金科（現時金工科）出身ニシテ金工科ヲ担当スルコト二十年ニ及ビ優秀ノ技能ヲ有シ金工技術ノ研究ニ熱心ナル者ナルニ付益々其技術ノ蘊奥ヲ究ハムル為ニ歐洲ニ於ケル金工術最新ノ實地的研究ニ従事セシメタク派遣ヲ必要トスルニ由ル

と記されている。彼は昭和二年三月三十一日（實際は四月二十五日）出発、在留期間短縮により同四年六月十六日に帰国し、復職。本校廃止まで在職し、東京芸術大学非常勤講師もつとめた。

#### ⑤ 矢代幸雄の欧米出張

昭和二年三月二日、教授矢代幸雄は文部省より欧米出張を命ぜられた。矢代自筆の出張願（昭和二年職員関係書類掛）には次のように記されている。

#### 歐米出張願

小生儀去ル大正十年ヨリ大正十四年ニ亘リテ、西洋美術史ニ関スル文部省在外研究員トシテ歐洲ニ滞留中、主トシテ「イタリヤ」文藝復興期ノ画家「ボティチェリ」ノ研究ニ従事シ、研究ノ結果ハ、之ヲ論文 A Newly Discovered Botticelli (英國 The Burlington Magazine 大正十四年四月号登載) 並ビニ著書 Sandro Botticelli 三卷 (大正十四年十一月ロンドン市 The Medici Society 出版) トシテ発表致シ置キ候。然ルニ此発表ハ小生ノ企圖シタル研究計画ヲ盡サズ、特ニハ「ボティチェリ」ノ史的考察ニ缺ク可ラザル「ボティチェリ」トソノ周圍トノ関係ニ